



University of Tsukuba of Tsukuba Vision 2030

Creating new value of GLOBAL TRUST

2022年4月
国立大学法人筑波大学

目次

筑波大学 Vision 2030 策定にあたって	1
筑波大学 Vision 2030.....	3
開かれた大学 Vision.....	5
教育 Vision	7
研究 Vision	10
社会との共創 Vision.....	12
筑波大学の次の 50 年に向けて	14

筑波大学 Vision 2030 の策定にご協力いただいたすべての教職員に対して感謝申し上げます。2018 年より、大学経営改革室のメンバーには、さまざまなアイデアをいただきました。Vision 2030 のたたき台は、これらのアイデアをもとに作成しました。また、4 回にわたる筑波大学 Vision シンポジウムに参加していただいた教職員の皆様には、貴重なご意見、コメントをたくさんいただきました。筑波大学 Vision 2030 には、皆様の筑波大学に対する愛着や思いを込めさせていただきました。

最後に、企画評価室のメンバーには、筑波大学 Vision 2030 策定の初期段階から完成まで、知恵袋としてまた強力な推進力としてすべての面でご協力いただきました。

あらためて、感謝申し上げます。

筑波大学 Vision 2030 策定にあたって

たゆまぬ挑戦

2023年、筑波大学は開学50周年（創基151年）を迎えます。わが国が設置した最初の高等教育機関として1872年に産声をあげた師範学校をそのルーツとしてもつ本学は、1973年、あらゆる意味において「開かれた大学」という基本的性格を建学の理念に掲げて、筑波研究学園都市に誕生しました。当時の大学は、学問分野の深化・専門化の進展に伴って、教育・研究領域の融合や流動性が失われ、社会からかけ離れた存在と見られがちでした。この現実が、本学の基本的性格を決定づけました。社会に向けた筑波大学からの回答のひとつが、他に類をみない学問分野を集め、教育組織と教員組織を分離した柔軟な教学システムや組織的な分野横断型の研究の推進といった先導的に導入した新しい仕組みです。本学は、旧来の観念に捉われることなく、実験的取組に果敢に挑む「新構想大学」として、本学のあるべき姿、すなわち、他の総合大学の構成に加えて、体育、芸術をも含み、それらの学問分野の学際的な協働のうえに新たな学問分野を創成する「真の総合大学」¹を追い求めてきました。変動する現代社会への不断かつ柔軟な対応が求められるがゆえに、いわゆる改革疲れや閉塞感を抱くこともありました。しかしながら、建学の理念にある本学の目的をより高い次元で達成するためには、歩みを止めるわけにはいかないのです。

大学への期待

わが国は、少子高齢化や地域の過疎化といった国際社会がこれから直面する課題にいち早く向き合い、その解決に注目が集まる、いわゆる課題先進国に位置付けられます。世界に目を転じれば、貧困、飢餓をはじめとする世界規模の課題が山積しています。大学は、教育を通して社会に貢献する人材を育成しています。同時に、教育は、「新しい知」という価値を生む研究に支えられています。人類がこれまで蓄積してきた「知識」とそれを基盤とした「新しい知」は、こうした課題への先例のない解決策をもたらします。大学はそのような重要な役割を担っています。

ひとつの課題の解決は、それを内包する、より複雑な課題を浮き彫りにします。大学が社会変革に繋がる新しい価値を創造し続けるには、教育力と研究力の飛躍的な向上が必要であることは論を俟ちません。そのため、教育や研究への投資の拡大を可能とする財政基盤の強化とその自立化が必要です。大学と社会のエンゲージメントを強化するために、世界のトップレベルの大学がそうであるように、大学が目指す将来像とその実現によってもたらされる未来、すなわち、われわれが考えるビジョンを、投資家を含めたすべてのステークホルダーに提示し、価値観を共有する必要があります。言うまでもなく、ビジョンは大学や構成員の行動や判断の指針となり、結束力の強化と愛着の涵養に繋がります。

¹単に様々な分野が集まっている、あるいは学問間が協力して共同研究・教育を遂行するだけでなく、学際的な協働の上に新たな学問分野を創成する総合大学（「国立大学法人筑波大学第四期中期目標期間における指定国立大学法人の指定に関する構想調書」を加筆）

2030年に向けて

COVID-19²の拡大が始まった2020年、ビジョン策定の議論が熱をおびました。そのとき、その後の社会のドラスティックな変容を予測することは困難でした。本学は、IMAGINE THE FUTURE.というスローガンのもと、未来社会の姿が見えない時代であるからこそ、あるべき未来を構想し、さらなる改革を加速させるべきであると考えました。加えて、第4期中期目標期間における指定国立大学法人制度への申請は、建学時に世界有数の大学をベンチマークしたこと³をわれわれに再認識させるとともに、本学の将来像を熟考する契機となりました。

「筑波大学 Vision 2030」は、そのような背景のもとで策定されました。遠い未来ではない2030年をターゲットとすることで、おとぎ話としてではなく、本学が創出する価値をより具体的にイメージできるのではないかと考えました。教職員による熱い議論を経て、筑波大学に対する愛着や思いが盛り込まれた「筑波大学 Vision 2030」は、本学が一丸となって目指す大学の姿とその実現に向けた基本的な方針をまとめたものとなりました。ビジョンの実現に向けた強い意思をご理解いただければと思います。

COVID-19という人類が直面する課題の解決に注力している間にも、東欧の政情の不安定化をはじめとする新たな世界規模の課題が生じています。本学は、このような課題の解決にも果敢に挑戦していきます。今後とも、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年4月1日

国立大学法人筑波大学長

永田 恭介

² 新型コロナウイルス感染症

³ 1964年に新設された米国カリフォルニア大学サンディエゴ校における「クラスター・カレッジ制度」は本学の教育システムの構築に最も影響を与えたものとの記録があります。この制度は、カレッジ制度の長所である人間的な接触と交流を密にした教育を実施するとともに従来の学部・学科間の障壁を排除することによって、内外ともに開かれた大学を目指すもので、いわば大規模な総合大学と小規模の大学の利点を併せもつような新しい教育研究組織（「筑波大学十年その成果と課題」より修正）と報告されています。

筑波大学 Vision 2030

本学は、複雑で従来の延長線上の考え方が通用しないこれからの社会では、信頼、とくに、TRUST の語源どおり互いに委ねることができる「真の信頼」がすべての活動の基盤になると考えています。COVID-19 は、ワクチンなどの資源の分配にあるような地域間の格差、富（所得）の格差、教育の格差、ジェンダーによる格差など、さまざまな「格差」の存在を浮き彫りにしました。そして、格差は「対立」や「分断」を加速させる一因になっています。その一方で、COVID-19 の克服は、対立や分断を促すことのない、人類が同時に向き合う共通の課題となりました。世界の英知と国境を越えて集められたデータがワクチンの開発を加速させました。ワクチン開発の成功は、個人と個人、個人と組織あるいは社会だけではなく、社会と社会、組織と組織、国と国までを含めた信頼の関係によってもたらされています。

本学は、この信頼を“GLOBAL TRUST”と呼ぶことにしました。“GLOBAL TRUST”は、ワクチン開発の例からもわかるように、何事に対しても誠実に公平に向き合い全うする力を持ち、同じ価値観をもっていると理解されることではじめて生じます⁴。倫理観、他者やその社会への共感に基づく責任感、信頼性を意味し、社会的な協力や協調の礎をなすものです。本学のルーツである高等師範学校校長であった嘉納治五郎が唱えた「自他共栄」と「精力善用」に通じるものです。



⁴ 東欧における侵攻をはじめとする国際的な紛争の解決には、相互理解とともに“GLOBAL TRUST”が必要不可欠であることに異論はないと考えます。

本学は、“GLOBAL TRUST”の創出を目標として掲げ、この目標を達成するため、本学が目指す大学の姿とその実現に向けた基本的な方針を「筑波大学 Vision 2030」としてまとめました。そこでは、建学の理念に謳われた「あらゆる意味において開かれた大学」の意味をあらためて見つめ、「社会とのエンゲージメントを深め、学生を中心とした大学を取り巻くすべてのステークホルダーとあるべき未来社会を共創する大学」と捉え直しています。さまざまな研究機関や企業が集まる筑波研究学園都市（Tsukuba Science City: TSUKUBA）は、教育、研究、そして社会貢献の大規模な挑戦的社会的実験の場（チャレンジフィールド）として最適な環境といえます。スーパーシティ型国家戦略特区にも指定される恵まれた環境を活用しつつ、確固とした伝統と未来を見つめた革新の精神を心に、TSUKUBA の地から、すべてのステークホルダーの夢の実現を加速させたいと考えています。

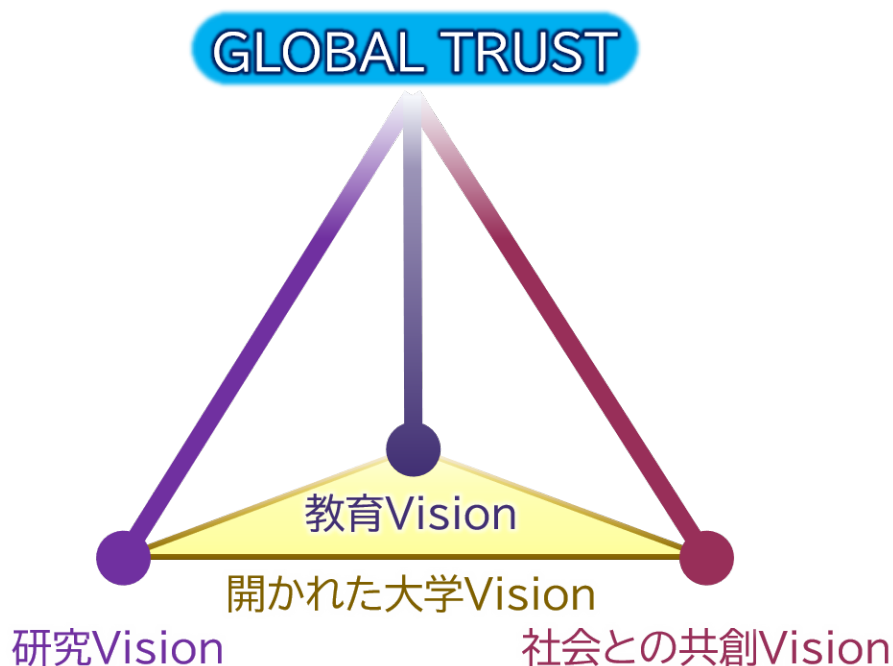
筑波大学 Vision 2030 は、

- ・ 開かれた大学 Vision
- ・ 教育 Vision
- ・ 研究 Vision
- ・ 社会との共創 Vision

の4つで構成しています。

教育 Vision、研究 Vision、社会との共創 Vision は、大学のミッションである教育、研究、社会貢献それぞれに対応するもので、開かれた大学 Vision は、それらの基盤となる、筑波大学そのものの在り方を示すものという位置付けです。社会との共創は、筑波大学の基本的性格の新たな捉え方に応じて、従来の社会貢献を発展的に再定義したものです。

筑波大学 Vision 2030 は、教育、研究、社会との共創の各 Vision を達成するための重点戦略とアクションプランをお互いに交差させながら実現し、さらにより高度なものへ昇華させることで、“GLOBAL TRUST”の創出を実現することを意図しています。



開かれた大学 Vision

あらゆる意味において開かれた大学として、夢を実現していく、開放性と透明性を高めた自立的大学経営を推進します。

開かれた大学 Vision にこめた思い

自立した大学経営と戦略的な大学マネジメントの強化・推進が期待されています。筑波大学が魅力的で愛着をもてる大学であることは、それらを支える重要な要素です。教育、研究、社会との共創のあらゆる面で、構成員がいきいきと活動でき、誇りをもてる環境であり、学内外のすべてのステークホルダーにとって夢を共創していく、唯一無二の大学でありたいと願っています。財政的に自立した、世界のトップ大学と肩を並べる大学となるため、財源の多様化、コンプライアンス体制やガバナンスの強化とともに、組織的でスピード感のある意思決定ができる体制作りが急務と考えています。

重点戦略-1

“GLOBAL TRUST”を創出する自立的戦略的大学の確立

大学経営の高度化をはかることで、真の経営体となります。経営のプロフェッショナル教職員を養成するとともに、学外からの知を積極的に活用できる体制を整備します。このことにより、大学のミッションを強力に推進できるマネジメント体制に変革します。そのもとで、社会やステークホルダー一人ひとりの夢に寄り添い、社会に有為な価値の創造を通して、“GLOBAL TRUST”を創出します。キャッチフレーズは、「あなたの夢を筑波大学をとおして実現しませんか」です。

アクションプラン-1.1

財源の多様化による財務基盤の強化

外部資金の獲得を一層強化するとともに、学内のさまざまな資産の有効活用、社会的価値の創出による社会からの還元や寄附等による財源の多様化を推進します。そのために、アカウンティングに加えてファイナンスのための組織強化を行います。

アクションプラン-1.2

コンプライアンスの強化

教育・研究のインテグリティ⁵を確立し、社会的責任を果たしていくため、法令の遵守や大学としての倫理に則った大学経営の透明性向上とグローバル社会の一員としてのコンプライアンスの推進をはかります。

アクションプラン-1.3

アジャイル・ガバナンス⁶の推進

学内外のステークホルダーとともに、あるべき未来と夢を描くビジョンを策定し、常にそのブラッシュアップをはかります。ビジョンの実現に向けて、柔軟かつ迅速な組織運営の推進と包括的な改革を先導します。

⁵ 誠実さや真摯さといった概念を含む健全性

⁶ 「政府、企業、個人・コミュニティといったさまざまなステークホルダーが、自らの置かれた社会的状況を継続的に分析し、目指すゴールを設定した上で、それを実現するためのシステムや法規制、市場、インフラといったさまざまなガバナンスシステムをデザインし、その結果を対話に基づき継続的に評価し改善していく」ガバナンスのモデル（「GOVERNANCE INNOVATION Ver.2」、経済産業省、2021年）

重点戦略-2

エンゲージメント⁷の強化による筑波大学 FAN の拡大

深い愛着をもって接することができる大学となるように、すべてのステークホルダーとのエンゲージメントを強化します。多様な人びとが安心して繋がりをもつことができ、誇りをもって活躍できる環境を整備します。

アクションプラン-2.1

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン⁸社会を牽引する人エンパワメント環境の構築

国籍、性別、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もがもつ多様性を尊重して公正に向き合い、潜在的な可能性をエンパワーメントし、さらなる活躍ができる環境を構築します。

アクションプラン-2.2

社会やコミュニティとの連携の強化

筑波大学にとっての地域とは、TSUKUBA と世界です。積極的に情報公開を行い、TSUKUBA をはじめとして、日本、世界のコミュニティとの連携を強化し、その一員として社会的価値の共創を推進します。

アクションプラン-2.3

筑波研究学園都市の有機的連携による活性化

筑波大学の教育・研究機能を筑波研究学園都市と連携・加速化させ、街をチャレンジフィールドとして最先端の知的基盤を創出するとともに地域文化の活性化に挑みます。

重点戦略-3

デジタル社会を前提とした次世代型大学の構築

時間や空間といった制約から解放されたデジタル社会を前提として、大学のすべてのステークホルダーとの情報の共有を通じた価値の創出を促進します。また、アナログとデジタルが融合した次世代型筑波大学を構築します。

アクションプラン-3.1

情報の循環と共有を加速するデジタルキャンパスの推進

学内外の膨大な情報の有機的な結合による新たな価値の創造と循環・共有を促す仕組みを作り、それを最大限に活用した次世代のデジタルキャンパスを構築します。

アクションプラン-3.2

業務環境の再構築による新たな価値の創出

次世代のデジタル技術を先取りした抜本的な業務環境の再構築を行い、業務の効率化と生産性の向上による新たな価値の創出が加速できる環境を整備します。

⁷ 組織が社会に対して主体的に深い対話や共創などを通じた強い関与を持つことで、多面的にそれぞれのステークホルダーに対して責任を果たし、相互理解を得、互恵的に協働していくこと（国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議「国立大学法人の戦略的な経営実現に向けて～社会変革を駆動する真の経営体へ～最終とりまとめ」より）

⁸ Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包摂性）

教育 Vision

学問を幅広く修めることを通して、ものごとの本質を理解し多角的にとらえる基礎的な力を培います。自由で何度でも挑戦できる環境の中で、多様な価値観をもつ他者とともに、倫理観をもって、ひたむきに課題解決の最善策の模索と実践ができる人材を育成します。

教育 Vision にこめた思い

筑波大学は、多様な学問分野をもつ「真の総合大学」であることを強みに、さまざまな学問の基盤となる知識をもち、新たな分野の創造に挑戦しつつ他者と協調しながら自律して社会を共創できる能力をもった人材をこれまで以上に育てていきたいと思っています。これらは、複雑性が増すこれからの時代を生き抜くために必要不可欠な資質や能力です。学生個々の課題意識の本質を浮き彫りにしそれを深化させる本学独自の学位プログラムによって、それらを培いたいと考えています。筑波大学は学修のみならず学生の起業や留学など、自分の夢を叶える挑戦を強力に支援し、多様な学生が安心して自己実現に挑める環境を構築します。加えて、学び直しや生涯学習など、働き方の変化とともに変容する社会的なニーズに応える教育環境の構築も加速させます。

重点戦略-4

Next VUCA の時代⁹に活躍する学生の人間力¹⁰を伸ばす教育の展開

先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代であるからこそ、その先を想像でき、ひとの役割を理解し、自立した一人の人間として力強く生きていくための教育内容や教育方法などの改革を推進します。基礎的な知的能力、社会や他者との関係性を構築し調整する能力や、それらを高め発揮するための自己修養能力といった人間力を伸ばす教育を展開します。

アクションプラン-4.1

デザイン思考に基づく、全学的チュートリアル教育の実践

学士課程を通して、創造的な課題解決思考に則ったデザイン思考を涵養し、学生個々の興味・関心の中心にある学問分野と、それに関連する分野への好奇心と実践力とともに学究心を培う「チュートリアル教育」により、ひとの価値を先取りするような、ものごとの本質を特定の学問分野の枠を超えて多角的に捉える能力を身につける教育を展開します。

アクションプラン-4.2

パーソナライズされた教育プログラムの提供と学習成果の可視化の活用

学生の興味・関心に応える、一人ひとりに最適化された教育プログラムを提供します。先端的なITツールの積極的な活用を前提に、総合智をはじめとする基礎的な学問と専門的知識を修得するとともに、学習成果の可視化を活用することで学生の成長を加速させます。

⁹ 移動といった物理的な制約から解放され、より将来の予測が困難な時代。VUCAはvolatility（変動性）、uncertainty（不確実性）、complexity（複雑性）、ambiguity（曖昧性）の頭文字

¹⁰ 社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力のこと。知的能力的要素、社会・対人関係力的要素、自己制御的要素から構成される（内閣府「人間力戦略研究会報告書」、2003年4月より）

アクションプラン-4.3

経験価値の向上を促す活動の積極的支援

失敗を成功への通過点として前向きに受け入れて、何にでも、何度でも挑戦できる環境を提供します。学生ならではの経験価値の向上、社会の一員としての自発的な挑戦に繋がる課外活動や社会貢献活動、筑波大学独自の活動である T-ACT¹¹などを積極的に支援します。

重点戦略-5

自己実現と多様な社会的教育ニーズを支える教育・研究活動の新展開

コロナ禍を経てさらに加速する知識基盤社会¹²では、学生個人が置かれている環境に柔軟に対応する能力と、「個」や「他者との絆」を尊重する姿勢が求められます¹³。これらを土台として、学生誰もが自己実現や目標を達成し夢を実現でき、加えて、社会のニーズに応えることができる教育・研究環境を充実させます。

アクションプラン-5.1

自他共栄の精神をもつ問題解決実践型人材の育成の展開(学士課程)

多様な価値観をもつ他者を認め互いに信頼し、助け合う精神は、知識基盤社会において、地球規模の課題の解決に挑む根源的な基盤です。「真の総合大学」に集う多様な学生や教員との学際性や国際性に富んだ議論と、このような精神の涵養を通して、課題解決の最善策の模索と実践ができる人材を育成する教育プログラムを充実させます。

アクションプラン-5.2

創造力溢れる筑波大学ブランドの研究者・高度専門職業人の育成拡大(大学院課程)

筑波大学の特徴である学際性・国際性を深化させ、学生の主体的な興味・関心に基づいた夢の実現を、学問分野の壁を越えて強力に支援します。大学院共通科目等を充実させ、研究者・高度専門職業人としての教養や知識の更新を加速させます。

アクションプラン-5.3

社会人の学び直しをはじめとする生涯学習に寄り添う教育の展開

ライフステージにかかわらず、学ぶ意欲のある者が学びたいときにいつでもどこでも学ぶことができる柔軟な教育プログラムを構築します。社会人が期待する職業能力の向上に資する高度な専門知識や技術の修得機会を提供します。正規の課程のほかにも、エクステンション・プログラムをはじめとする教育プログラムを拡充することで、新たな学びへの期待に応えます。

¹¹ 学生の主体的活動を支援する本学独自のプロジェクト(<https://www.t-act.tsukuba.ac.jp>)

¹² knowledge-based society：新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

¹³ OECD のキーコンピテンシー

重点戦略－6

国際的互換性をもつ教育システムの世界展開

2030年には、デジタル技術の発展により、時間や空間の制約を越えて学生や教職員が集うシームレスなデジタルキャンパスが実現しています。そのもとで、国内はもとより、国際的にも、学生にとって教育・研究の拠点となる唯一無二の大学であるために、国際互換性を備えた教育システムの拡充を積極的にはかります。

アクションプラン－6.1

国境を越えて学生が集う教育プログラムの開発

CiC (Campus-in-Campus)¹⁴とCwC (Campus-with-Campus)¹⁵をはじめとし、国内外の高等教育機関と連携し、国際的互換性を有する教育プログラムの拡充をはかります。留学生が日本語や日本の文化の理解を深め、多くの日本人学生が海外留学・武者修行に赴く教育プログラムを推進します。

アクションプラン－6.2

Tsukuba Education Systemの海外展開

海外キャンパスの設置をはじめ、筑波大学の高度な学士・大学院教育プログラムの国際展開をはかります。海外キャンパスと国内キャンパスが国境を越えて有機的に連携することで、両キャンパスに集う学生がともに学び合う新しい教育システムの構築に挑みます。

アクションプラン－6.3

高大接続の新機軸の創出

附属学校をはじめとする高等学校と大学との連携を強化し、大学教育の高等学校への解放、世界を先導する附属学校としての機能の強化をはかります。とりわけ、先進的なインクルーシブ教育、グローバル人材育成などの実践を加速し、その成果を世界展開に結びつけます。

¹⁴ 協定を締結した海外のパートナー大学との間でキャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えた教育研究交流を実現する取組

¹⁵ キャンパス機能を相互に共有し、両者の教育研究資源を積極的に活用した教育を展開することで、学生・教職員のモビリティを高め、教育研究力を互恵的に向上させる取組を展開し、両大学におけるトランスボーダー化を推進することを目的とする国内大学間連携協定

研究 Vision

高い専門性と広い視野をもつ研究者が分野をこえて協働し、個人の興味関心に根ざした自由な発想のもと、情熱をもって真摯に真理を探究します。伝統的な学問分野の研究を推進するとともに独創性のある研究分野を開拓します。

研究 Vision にこめた思い

筑波大学は、人文社会、理工、情報、生命、医学だけでなく、人間、図書館情報、体育、芸術にもわたる幅広い学問分野をもつ、他に類をみない研究型の総合大学です。この強みを活かし、既存の学問領域の壁を超え自由な発想のもと、イノベーションの源泉ともいえる、学問領域の掛け合わせによる融合を推進してきました。そのもとで、研究の質の向上に加え、中長期的に腰を据えて基礎研究に注力できる研究環境や、新しい研究組織が次々に生まれるような深い専門性をもつ研究者が交流できる環境の整備を充実させる必要がありますと考えています。研究成果の社会への実装の加速も不可欠であり、筑波研究学園都市を大規模な挑戦的社会的実験の場（チャレンジフィールド）として活用しさまざまな実験・社会実装を展開する、新たな研究学園都市モデルを構築したいと考えています。

重点戦略－7

知的好奇心をくすぐる原理探求研究の推進

宇宙から生命、文化に至る原理の探究をはじめ、自然科学から人文社会、体育、芸術に至る真理や学知を追求します。筑波大学の研究成果が、教科書を書き換えていき、さらなる知的好奇心の源泉となるような研究を推進します。

アクションプラン－7.1

人の根源や人と人の関係性の理解に迫る研究の推進

感性、知能、認知、あるいは睡眠、加齢、孤独といった人や文化の基盤となる研究、その背景にある自然の成り立ちや自然と人の関係にかかわる研究を、既存の学問分野の枠を越えて推進します。

アクションプラン－7.2

未来を創るテクノロジーの基盤研究の加速化

移動といった物理的な制約から解放されるデジタル社会の根源的な課題である、現実と仮想の境界を対象とした脳科学にかかわる研究や、デジタル社会における未来の教育などの先端研究に世界に先駆けて取り組みます。

アクションプラン－7.3

中長期的な視野に立った研究を支援する研究環境の推進

短期的な結果を追い求めるばかりでなく、質の高い、腰を据えた中長期にわたる基礎研究が実現できる研究環境の構築を推進し、国際的にも存在感のある研究拠点の形成を促します。

重点戦略－8

学際的研究の推進による学術分野の創生

筑波大学の特徴である、学問分野を越えた研究者の集団による学際的研究を基盤に、新たな学術分野の創生を目指します。

アクションプラン－8.1

知の交差点の形成と拡充

さまざまな研究分野の研究者が集い、真の意味での交流がはかれる場「知の交差点」¹⁶をあらたに設置し、イノベーションの創出を加速させます。

アクションプラン－8.2

新しい学術分野の創出を促す研究環境の構築

学問分野の垣根を越えた共創が不可欠なスマートシティ研究、デジタル変革研究や宇宙開発研究、体育、情報、工学の掛け合わせによる障碍を超えた新しいスポーツの創出研究など、複数の学問分野の掛け合わせを通して新たな学際分野を創出します。

アクションプラン－8.3

新たな研究学園都市モデルの構築

筑波研究学園都市との融合を深化させ、SDGs、ESG やカーボンニュートラルなどの世界規模課題の解決を加速させます。TSUKUBA そのものをチャレンジフィールドとして活用する、新たな研究学園都市モデルの構築を目指します。

重点戦略－9

若い才能を開花させる知の創造環境基盤の整備・充実

意欲と熱意のある若手の研究者が自由に研究でき、成長を自ら実感できる研究環境の整備と充実をはかります。

アクションプラン－9.1

若手研究者を取り込む研究フィールドの整備・拡充

ダイバーシティに富んだ意欲と熱意のある若手の研究者が集い、自由に研究できる環境の整備など、若い才能が開花する研究環境の整備を推進します。

アクションプラン－9.2

海外武者修行などの若手研究者育成プログラムの拡充

本学独自の海外研究教育ユニット招致や国際テニユアトラック制度などを充実させ、国際的に評価の高い研究機関での他流試合や海外武者修行の支援、研究資金獲得の支援など、若手研究者育成プログラムの拡充と挑戦心の底上げを通して研究の質の向上をはかります。

¹⁶ 多様なステークホルダーが集うことのできる施設

社会との共創 Vision

未来社会を創造する知的原動力としての機能を強化します。TSUKUBA の地から世界と連携し、潜在する地球規模の課題の同定に粘り強く挑みます。そして、課題解決につながる研究成果の社会実装を推進し、未来社会の共創に貢献します。

社会との共創 Vision にこめた思い

筑波大学は、産学共同研究の促進や大学発ベンチャーの創出、エクステンション・プログラムなどの教育プログラムを通して、筑波大学の価値を社会と共有してきました。これらの活動に対する社会からの積極的なフィードバックと、未来社会の共創を加速させ、社会の一員としての役割を高めることが必要であると考えています。とりわけ、SDGs、ESG やカーボンニュートラルの達成に向けた社会との協力関係の強化が重要であると考えています。これらの観点から、一方向であった社会貢献という大学の従来ミッションを、社会との共創という双方向のものへと昇華させ、再定義しました。

重点戦略-10

戦略的産学官金連携による未来社会共創への挑戦

産業界、金融、行政を含むさまざまなセクターとの共創を通じて、社会価値の創造と地球規模課題の解決を加速させ、科学技術立国のフロントランナーとしての機能を強化します。

アクションプラン-10.1

社会との共創プラットフォームの確立

筑波大学が中核となって、SDGs、ESG やカーボンニュートラルの推進のみならず、スマートシティ構築をはじめとする未来社会を共創するプラットフォームを確立します。そのチャレンジフィールドとして、TSUKUBA を活用します。

アクションプラン-10.2

組織対組織による大型共同研究を核とした連携の強化

研究目的達成へのコミットメントを高めます。学内の学術的成果を結集して、組織対組織の大型の共同研究を推進します。また、共同研究を通して、産学共著論文の公表や特許の創出の増加をはかります。

アクションプラン-10.3

ニーズドリブン型研究の推進

企業等が抱えるニーズや課題を解決する研究に積極的に取り組み、その成果の社会実装を推進します。筑波大学の研究者等を活用した産学官連携の研究活動の拠点として設置する B2A (Business to Academia) 研究所を核として社会との連携を強化します。

重点戦略－11

筑波大学ベンチャーエコシステムの強化

喫緊の社会課題の解決や社会価値の迅速な創出に貢献すべく、筑波大学で生まれた斬新な研究成果の社会実装を促進して、研究活動の持続的好循環をもたらす仕組みを確立し、社会との研究成果の共有を加速させます。

アクションプラン－11.1

次世代アントレプレナーシップ教育の拡充

起業に向けた実践的な教育プログラムの充実をはかり、潜在的な次世代アントレプレナーの教育に貢献します。筑波研究学園都市の研究者や、社会課題の解決に意欲のある研究者への教育プログラムの開放を加速し、筑波大学の教育の価値の社会との共有をはかります。

アクションプラン－11.2

筑波大学発ベンチャー(スタートアップ)創出の加速

知的財産の権利化と保護・活用の支援やギャップファンドなどによる支援を促進し、研究成果の出口戦略として、大学発ベンチャーの創出をさらに加速して社会実装を強化します。

アクションプラン－11.3

ベンチャーエコシステムの活性化

次世代の筑波大学発ベンチャーの創出を人的かつ財政的に支援できるエコシステムの高度化をはかります。

重点戦略－12

研究成果の社会への実装による未来社会共創の加速

研究成果の社会への実装の加速は、筑波大学のミッションに応えるものです。筑波大学は、未来社会の価値創造ばかりでなく、地球規模課題の解決に貢献します。

アクションプラン－12.1

SDGs やカーボンニュートラルへの貢献の加速と社会共創型研究の推進

社会の価値創造に繋がる社会共創型研究を推進します。このことによって、SDGs や ESG、カーボンニュートラルへのコミットメントを高め、地球規模課題の解決に貢献します。

アクションプラン－12.2

高度医療技術の開発を通じた最先端医療の社会還元の促進

最先端の医学研究の成果を、筑波大学附属病院を通して、人や社会に迅速に還元し、特定機能病院として地域における医療の高度化をはかります。

アクションプラン－12.3

子会社を通じた社会貢献の推進

筑波大学と社会の接点として、機動的・流動的な企業活動が可能な子会社を設立し、卓越した研究成果の社会実装や社会共創を加速させます。

筑波大学の次の 50 年に向けて

2022 年 4 月、筑波大学は、指定国立大学法人としてあらたな一步を踏み出しました。指定国立大学法人制度は、国際的な競争環境のなかで、世界の有力大学と肩を並べ、わが国の教育・研究の水準を著しく向上させるとともに、イノベーションの創出を加速させる大学を支援することを目的としたものです。この制度を活用して、本学の経営基盤の強化をはかるとともに、教育、研究、社会との共創といったミッションを実現・高度化させていきます。

次の 50 年には、新構想大学から未来構想大学へと深化し、「未来」を体現するに相応しい大学となるため、歩みを止めることなく、たゆまぬ挑戦を続けます。一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

幼いころに読んだ SF マンガで描かれた世界が現実のものとなっています。「筑波大学未来空想プラン」は、筑波大学が描く、2040 年までに実現したい研究や教育のひとつです。このプランが未来空想で終わるか、それとも現実となるかは、われわれのこころのビジョン次第です。

筑波大学未来空想プラン

未来の研究

- ・火星にキャンパスをつくれるか
往復 3 年の移動、大気組成など、研究テーマは山積
- ・デジタル社会でのアナログに関する研究はどうか
ひとの感性や認知などの研究の深化

未来の教育

- ・新たな教育分野としての第 4 学群、第 5 学群の設置は可能か
- ・小中高大院一貫の教育サイエンスカレッジはつくれるか
外部法人の活用など

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

IMAGINE THE FUTURE.

編集・発行：筑波大学大学経営推進局
2022年4月1日 初版